

あした 未来へつなぐ

【社会貢献】

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里紗



大沼地域で行われる長期キャンプの様子。「環境保全」「地域振興」「観光振興」の3つの事業を柱に、地域資源を活用した持続可能な地域づくりを目指している。

多彩な自然体験プログラムを通して 道南・大沼の魅力をアピール！ NPO法人 「大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター」

J R函館駅から特急で約二十分。国定公園に指定されている大沼は、白鳥が飛来することで知られる道南でも有数の景勝地です。JR北海道では、隣接する観光施設「流山温泉」を有効活用し、大沼の魅力をアピールするため、平成二十一

年六月に「大沼ふるさと森自然学校」を開設したのに続き、今年五月には運営母体としてNPO法人「大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター」を立ち上げました。流山温泉には、温浴施設をはじめ、キャンプ場やパークゴルフ場、スポーツ広場、

世界的な彫刻家・流政之氏がプロデュースした彫刻公園などがあり、自然体験には絶好の施設。平成二十年から、子ども向けの短期・長期キャンプや森遊び、環境学習講座、地元住民が対象の地域交流など、さまざまな自然体験プログラムを試し、実績を積み上げてきました。

NPO法人としてスタートした後も、これまでの経験をベースに活動を展開していますが、中でも大がかりな取り組みとなったのが、「ふくしまキッズ夏季林間学校」です。これは、福島のNPO法人を中心に結成された実行委員会に、同NPO法人も協力し、実施されたもので、大沼ふるさと森自然学校も受け入れ先のひとつとなりました。ご存知のように福島県では、福島第一原発事故の影響により子どもたちは外での遊

「ふくしまキッズ夏季林間学校」は数年間にわたり、春・夏・冬休みに実施される予定。



森林整備を行うなど環境保全も同センターの役目。



びが制限され、今も不自由な思いをしています。林間学校は、福島の子どもたちに伸び伸びと過ごせる環境を提供しようとして企画されたもの。大沼ふるさと森自然学校へは七月下旬から約一カ月間にわたり、約四百六十名が訪れ、森の探索や虫捕り、サイクリング、カヌー、SL乗車などを楽しみました。

地域と手を取り、経済振興と観光振興、そして環境保全に寄与することがセンターに寄与することもあるだけに、発足の目的でもあるだけに、地域住民や各自自治体と連携して取り組んだこの経験は、職員一人ひとりの自信になっただけでなく、たとえば修学旅行の対応など、今後の活動のヒントにもなったこと。

北海道新幹線開通後は、短時間で行き来できる、本州との陸続き感を強みに、より身近に楽しめる大沼を道内外にアピールしていきたいです。